



学校の変化

校長 赤尾 眞司

新しい年が始まって1か月が過ぎました。現在、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのまん延防止等重点措置が、1月21日から2月13日まで発令されています。学校では、手洗い、マスクの着用、換気、密を避けることを基本に、教育活動の内容も一部変更して感染防止に取り組んでいます。子供たちは、1年以上続く感染防止対策の実施で、新しい生活様式が身につけてきました。先週実施した5年生の社会科見学でも、お弁当の時は向き合わずに黙って食べることがしっかりできていました。広い芝生広場で子供たちの声が聞こえませんが、子供たちにとっては寂しい食事風景なのですが、感染予防をしっかりと意識できた行動で、とても立派でした。

本校ではこれまでどおりに学校が安全で楽しい場所であり続けられるように、教職員一同で取り組んでまいります。保護者の皆様のご理解とご協力をこれまで同様にお願ひ致します。

1月17日から28日まで、校内では書きぞめ展と連合図工展・書写展の出品作品の展示を行っていましたが、感染症対策のため、今年度も連合展が中止となつての校内展示になってしまいましたが、図工作品はたくさん展示することができました。子供たちが一生懸命に取り組んだ作品はどれも素晴らしいものです。また、友達の作品を見て、こんなところが良かった、自分もやってみたいという気持ちをもてることも作品展のよさです。これからの活動に生かしていければ良いと考えています。期間中はたくさんの保護者の皆様にご参観いただきありがとうございます。

学校のICT化

コロナ禍で学校のICT化が急速に進みました。3年前までは、本校ではデジタルテレビと電子黒板を合わせて5台の配置でした。各教室ではなかなか使えない状態のため、各教室にプロジェクターと実物投影機を設置して授業での活用を行っていました。昨年度には各教室に電子黒板と教室用PC、実物投影機が配置されました。そして今年度からの全児童のタブレット配布になります。タブレット配布前までは、実物投影機を使って学び方の習得、知識の定着、考えを深める活動等を進めてきました。低学年では、ノートの書き方の指導にも活用しています。発表の場面では、児童の書いたノートを投影することで、考えの共有をしています。また授業では、資料や絵、写真等を部分的に提示するなどして児童の思考を深める教材提示も行います。このような活用は、現在でも続けています。

タブレットが導入されて、これをどのように活用していくのか、私たち教員にとって大きな課題となりました。本校では校内での研修を通して使い方を模索し、実践してきました。個人の画面を使って、より分かりやすい課題の提示が可能になりました。また一人一人の考えをタブレット上に打ち込み、共有化を図ることが容易になりました。なかなか発言ができなかった児童の意見も文字で表現されます。並び替えや、同じ意見の集約も可能になり、学習面での使いやすさが少しずつ分かってきました。子供たちの学びは速く、いろいろな使い方を模索する児童も見られます。高学年では文字入力もスムーズに行えています。学年毎の成長過程により使い方には差がありますが、学習に活用することのメリットをたくさん掴むことができました。

これまでの学習活動とどのように融合させていくかということも考えなくてはなりません。私が課題を感じる一つが、文字を書く力が落ちるのではないかとことです。私たちは、小学校の学習で書くことの大切さを指導してきました。文字を書く練習や、考えをまとめるノートの使い方など、小学校では学習で書くことがたくさんあります。タブレットは打ち込むことで文字が表示されます。また、保存もできてしまいます。これまで大切にしてきた自分で書き作り上げるノートを今後どのように扱っていくのか考えてしまいます。子供たちはこれからタブレットを活用して学習活動を行っていきます。そのような環境でも、自身で書く文字の大切さも学ばせていきたいものです。